

## スギ花粉症患者における咳と呼吸機能検査

1) 公立丹南病院耳鼻咽喉科

2) 福井大学医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科学

3) 福井大学医学部小児科学

意元義政<sup>1)</sup>、山田武千代<sup>2)</sup>、高橋 昇<sup>2)</sup>、塚原宏一<sup>3)</sup>、藤枝重治<sup>2)</sup>

アレルギー患者に対しての下気道の調査は過去よりなされてきた。近年増加している鼻アレルギー、特にスギ花粉症において我々は咳に注目し、2004年度当科及び関連病院を受診したスギ花粉症患者に対し咳に関するアンケートを行った。その結果スギ花粉症患者の約半数に咳を認め、飛散中に最も頻度が高く、その多くが乾いた軽い咳であった。2005年度は当科を受診したスギ花粉症患者に対し、飛散前後でスパイロメリー検査と鼻腔通気度検査、咳に関するアンケート、鼻と鼻以外の症状のアンケートを行った。その結果飛散前後でスパイロメリーの変化は有意な差はなかったが、喉の症状に関するアンケートでは有意差をもって悪化が認められた。咳に関してはスギ花粉飛散時期に出現する咳は2004年度と同様にスギ花粉飛散中にもっとも多く、軽い咳が多かった。咳と鼻の症状は鼻の症状が先に出現する患者が最も多く(75%)、咳が先と答えた患者は13%であった。咳感受性の亢進が咳の原因の一つと考えられたが、スギ花粉飛散量が多いときは後鼻漏の増加が考えられる。逆に咳が原因で受診した患者は全体の40%に及び、軽い咳が多いとはいえその鑑別、治療は重要である。2004年度、2005年度の結果を基に上気道、下気道の関係を考察し報告する。